レジュメ

1、この世界に入ったきっかけ
1）妻の発症、ネットデビュー
2）そめさんとの出会い、活きたい会に入会
3）目が外に向くようになった
4）恩返し
5）ＮＰＯ法人活きる発足、自分たちの生活向上、楽しい人生
6）ホームページの紹介
「まりこの車椅子」　http://www.geocities.jp/miyawaki_s/index.htm
「ＮＰＯ法人活きる」　http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/

2．ボランティアとは
1）自分が関わった人や活動で成果を得たことに対して喜びを感じる。
例：引きこもっていた人が積極的になった。　障害者の夢の実現の手伝いができる。
2）その喜びを感じるため⇒自主性、満足感⇒社会貢献⇒ボランティア
3）見返りは期待しない。（ありがとう、という言葉がないかも知れない）
4）今迄のキャリア、肩書き、年齢、性別は関係なく、平等で同じ立場なので言葉使いに気をつける。
利害関係のない
いろんな立場の人と対等に接触し、謙虚に耳を傾かるために、まず、プライドを捨てること。
5）ボランティアといえども、リスクや責任は生じる。特に、人を対象とした活動は気まぐれでは、できない。
⇒趣味のサークルではない⇒支援対象者ありきということを忘れてはならない
6）有償、無償があるが、考え方は変わらない。
7）特に福祉ボランティアの場合、対象者の立場に立って考え、まず、すべてを受け入れる姿勢が大切。
（但し、ニーズとわがままの見極めも必要。しかし、ボラは指導者ではないので対応も慎重に）

ボランティア活動と言うものは、支援する対象へ無償（必ずしも金銭的な報酬を意味しない）の奉仕をするものでありますが、その対象者が奉仕によってよい方向に変わったり、幸せになることに喜びを感じるようになって、充実感を得ることが、強いて言えば報酬だと思います。　そして、活動を通じて、老若男女やキャリアに関係なく利害関係を持たない仲間ができるのも大きな魅力だと思います。

3．ＮＰＯ法人活きるの活動
1）社会参加の支援
社会参加のきっかけ作り
移送サービス、活きるサポート

4．障害者との付き合い
1）障害者の呼び方⇒ＮＰＯ法人活きるでは
2）障害者と介護者の関係⇒双方からの視点

休憩

介助技術
身体障害者が対象の場合は気持ち的なフォロー以外に技術的なフォローが必要になる
見守り
立ち上がり介助、歩行介助、車椅子の移乗・走行介助、食事介助、トイレ介助、寝返り介助
福祉用具の取り扱い（車椅子、介護ベッド、杖、移動リフト、段差解消機・・・）
一人ひとり、やり方が違うので、指導を受けながら信頼関係を築く

車椅子の役割＝
移動手段＋主な使用目的の選択（障害の時期、年齢、生活スタイル）、シーティングの重要性

1．車椅子介助
1）機能説明
2）取り扱い
3）坂道、段差越え、階段

2．ベッド介助、移乗
1）体向、横移動、ギャッジアップ・ダウン、
2）体を起こす、車椅子への移乗（片麻痺、下肢障害、全麻痺）、声かけ
3）その他（尿処理の話など）